

CODATA

Committee on Data of the International Science Council 科学技術データ委員会 概要

> 2024年12月 日本学術会議情報科学委員会 国際サイエンスデータ分科会 CODATA小委員会

CODATAとは



目的

- 科学データの管理と保存を改善するための組 織的な国際活動を実行
- 基礎物理定数の決定等、科学技術の基盤となるデータの管理
- オープンサイエンスを支えるデータポリシー など、国際的なデータ共有基盤の形成

沿革

1966年 国際科学会議(ICSU): Committee on Data for Science and Technology として発足

2015年 ICSU

ICSUと国際社会科学評議会(ISSC)が合流して国際学術会議(ISC)となるに伴い、正式名称をThe Committee on Data of the

International Science Councilに変更

組織

総会 理事会 事務局 隔年開催、活動・会計の評価、 理事会メンバーの選挙など

年1回対面、月1回オンライン開催。 TG・WG活動のレビュー、各国の 活動報告など

タスクグルー(TG)・ ワーキンググループ(WG)

総会での採択によって設置。学会などとも連携して独自に活動

資金

- メンバー組織分担金
- ISCやEUからのプロジェクト予算等

メンバー

19 ナショナル・ メンバー (日本学術会議ほか) 27 国際ユニオ ン・ISC関 連組織

4 機関 会員 | 8 | パート | ナー組 | 織

CODATAの活動



4つの支柱

世界をよりよくするた めのデータ

10カ年計画としては関連というでは、10カ年計画は関連をは、10カ年計画は関連をは、10カーでは、10カーが、10カー

データ・ポリシー

データ・サイエンス

データサイエンス・ データ管理の最前線 を推進する。基礎物 理定数の決定など データ共有のための 基準を提供するとと もに、国際会議 SciDataCon、データ サイエンスジャーナ ルなどを通じて分野 横断的なデータ活動 を推進する。

データ・スキル

オープンデータをサ ポートするために必 要なデータスキルや 各国の科学システム の機能を拡充させる ことで、オープンサ イエンスを実践する ために必要な能力を 構築する。国際的な データスクール・ ワークショップを開 催する。

日本学術会議・日本の科学者による貢献



創設

日本学術会議は創立当初からのナショナル・メンバーとして活動を支えてきた。 CODATAの創立に当たっては、日本の小谷正雄(東京理科大学学長・東京大学名誉教授)が指導的な立場で参加し、1978-1982には会長に選出された。これ以降も我が国の科学者が会長・副会長・理事などとして継続的に運営に携わっている。

組織運営 (近年)

2010-2018 五條堀孝(国立遺伝学研究所教授・副所長:

就任当時):副会長

2018-2025 芦野俊宏(東洋大学) 理事会メンバー

財政的貢献

我が国の分担金額は米中に続いて第3位

学術的貢献

基礎物理定数の決定、Digital-SI

CODATA創設から継続している活動。2019年にはプランク定数のCODATA推奨値が重さの単位Kgの基準として採用されたが、この値を決めるための国際プロジェクトには産業技術総合研究所などの研究者が多大な貢献。

データポリシーに関する国際的議論

2019年に日本からの研究者も参加した ワークショップにおいて"The Beijing Declaration on Research Data"を策定。 2020年に日本学術会議より「研究データ に関する北京宣言」として和訳を公開。 タスクグループの提案

2023年総会において理化学研究所の大武 美保子がチームリーダーを務める認知機 能支援に関わるタスクグループから "Data driven social change towards society promoting cognitively healthy aging"を提案し、採択。

今後の活動



WorldFAIR+

グローバルな課題解決のためのデータ共有を推進するため、FAIR(Findable, Accessible, Interoperable, Reusable)原則が重要性を増しているが、国際協力によるFAIR原則実装へ向け、ケーススタディを行う。 World FAIR

タスクグループ・ワーキンググループ群

総会において新規採択・継続審査を通過した10 程度の国際TG・WGが常時活動している。現 在活動中のTG・WGは

- 物理定数
- 市民科学
- 単位系のデジタル表現
- 災害情報
- 認知機能支援

などの課題に取り組んでいる。

Digital SI

国際度量衡委員会(CIPM)、国際度量衡局(BIPM) のDXプロジェクトに協力し、データ表現の在り方、信頼性の確保などデジタル時代の度量衡の在り方について検討・実装を進める。

Al for Science

データの品質などAIとデータに関わる諸問題につき、ISCと協力して国際的な議論を推進する。